

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人宝山寺福祉事業団 児童発達支援いっぽ		
○保護者評価実施期間	8年 2月18 日		8年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	8年 2月 18日		8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	8年 3月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの活動プログラムに、①健康・生活 ②社会性・人間関係、③言語・コミュニケーション ④認知・行動、⑤運動・感覚の5領域全てを意識した 内容を組み入れている事	支援プログラムを計画するために保育所指針、幼稚園 要項などを参考にして、年齢別に計画している。 生活動作の獲得のための時間に力を入れ、必要に応じて 1対1の対応をしている。(給食を導入している)	発達の遅れがある、ないに関係なく、子どもの育って いく道筋をしっかりとらえていく事を忘れない。
2	保護者への個別面談を、定期的に又は、随時行い、傾聴 し、相談が出来る環境を作っている事。また、連絡帳や お迎え時のフィードバックを1人1人に行っている事	保護者が相談しやすい雰囲気作りを大切にしている。	お話を傾聴するだけでなく、有効な情報や保護者の関 わり方についても伝えられるようにしていく。
3	子どもの所属する他機関(幼・保・こども園など)への 訪問や情報交換を行い、子どもや保護者支援に活かして いる事	事業所側も年2回の公開療育を実施し、関係機関に 事業所の取り組みをってもらうようにしている。	随時、有効な連携が気軽に出来るように関係性を作る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門家(OT,ST,心理士等)の配置が出来ていない。	経営的には配置は難しい。	職員の研修を充実し、専門家かいない部分を穴埋めし ていけるような支援を行えること。 他機関からのスーパーバイズを仰ぐ。 部分的にでも専門職の導入が出来ないか?検討する。
2	日々、会議・研修・ケースカンファレンスなど、職員の 質の向上を意識しているが、足りない所があると感じ る。	業務量が多くて、日々、研鑽する余裕がないのかもしれ ない。	業務の見直しを図っていく。特に、ITの導入を少しづ つ 勧め、業務の軽減や保護者のニーズに応えられること を 目指す。
3	個別支援計画の職員全体への周知が出来ていない。	確認、周知させる機会や、ツールは作っているが徹底さ れていない。	フィードバックの持ち方など、改めて改善出来る所を 考える。